

201516038A

厚生労働科学研究費補助金

障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）

要約筆記者による盲ろう者支援の
在り方に関する研究
平成 27 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 佐藤 匡

平成 28 (2016) 年 3 月

目次

I 総括研究報告

要約筆記者による盲ろう者支援の在り方に関する研究	佐藤 匡	1
--------------------------	------	---

II 分担研究報告

1. 弱視ろう・弱視難聴者への文字情報支援の在り方に関する研究	佐藤 匡	4
---------------------------------	------	---

2. 盲ろう者、特に視覚障害におけるコミュニケーション支援の多様性に関する研究	大河内 直之	64
---	--------	----

(資料)

各視覚障害関連機器・ソフトウェア

盲ろう者協会での実態調査

3. 盲ろう者に対する文字情報支援への要約筆記者活用の可能性に関する研究	三宅 初穂	92
--------------------------------------	-------	----

(資料)

要約筆記者養成カリキュラム (通知文)

盲ろう者向け通訳・介助員養成カリキュラム (通知文)

4. 検討会議記録		125
-----------	--	-----

研究作業日程表

研究組織体制(委員名簿)

委員会設置要綱

厚生労働科学研究費補助金
障害者対策総合研究事業 障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）
総括研究報告書

要約筆記者による盲ろう者支援の在り方に関する研究

研究代表者 佐藤 匡 特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会 研究員
研究分担者 大河内 直之 東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員
研究分担者 三宅 初穂 特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会 研究員

研究要旨 盲ろう者と呼ばれる人たちは、視覚及び聴覚の障害の程度によって①全盲ろう②全盲難聴③弱視ろう④弱視難聴に大別される。③、④の盲ろう者には、文字による支援を必要とするケースもあり、要約筆記が利用されることもある。しかし、聞こえない、聞こえづらいことに「見えづらい」障害が加わった盲ろうの状態では、その障害特性に合わせた支援が必要であり、要約筆記に従事する者は視覚障害に関する専門的な知識は不足している。

盲ろう向け通訳・介助員養成は、2013年度にカリキュラムが整備されたが、現状では、通訳・介助員数は地域による偏在や絶対数の不足という実情もある。障害者総合支援法での実施による制度的な課題として、盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業の利用時間の制約もあり、次善の策として要約筆記者派遣を利用するケースも見受けられる。

このようなことから、本研究では、まず、盲ろう当事者から視覚・聴覚の状況とコミュニケーション方法、必要な支援を明らかにするためアンケート及び聞き取り調査を行った。受障時期の違いによるコミュニケーションや情報獲得は多様であり、また、主たる情報獲得やコミュニケーション支援が文字である対象者は多いとはいえないが、個別性の高い支援が望まれることが明らかになった。平行した、聴覚障害者への支援方法である要約筆記と、盲ろう者への文字支援の共通点、相違点を明らかにする研究では、盲ろう者の求め「通訳作業」以外の支援の幅広さが浮かび上がった。

さらに、登録要約筆記者の習得している知識や技術を補完する追加養成カリキュラムとして、84時間以上のカリキュラム修了と登録試験の実施の定着しつつある要約筆記事業における実績を踏まえ、盲ろう者支援の知識、技術を新たに獲得するためのカリキュラムを検討した。この検討では、現行制度の中での利用のしにくさを一時的に回避する要約筆記の援用ではなく、盲ろう者の個人生活を実り豊かなものにする支援であることを目指した。

これらの3つの研究の成果であるカリキュラム案は、個別性の高い障害である盲ろう者の権利を擁護し、社会参加を促進し、生活を充実させるために有効に機能すると考えている。

A 研究目的

意思疎通の困難な視覚と聴覚の障害を併せ持つ「盲ろう者」といわれる人々がいる。視覚及び聴覚の障害の程度によって①全盲ろう②全盲難聴③弱視ろう④弱視難聴に大別される。③、④の盲ろう者には、文字による支援を必要とするケースもあり、要約筆記が利用されることもある。しかし、聞こえない、聞こえづらいことに「見えづらい」障害が加わった盲ろうの状態では、その障害特性に合わせた支援が必要であり、要約筆記に従事する者は視覚障害に関する専門的な知識は不足している。

盲ろう者向け通訳・介助員養成は、2013年度にカリキュラムが整備されたが、現状では、通訳・介助員数は地域による偏在や絶対数の不足という実情もある。障害者総合支援法での実施による制度的な課題として、盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業の利用時間の制約もあり、次善の策として要約筆記者派遣を利用するケースも見受けられる。

このようなことから、盲ろう者のなかで文字による通訳を必要とする人の状況を把握し、登録要約筆記者として習得したスキルを生かせる「盲ろう者向け通訳・介助」の学習課程を構築することは既存の社会資源の活用としても有用である。盲ろう者の個別性を重視し、1人ひとりに適した意思疎通支援を行うための学習体系を研究する。

B 研究方法及び結果

本研究では、まず、盲ろう者の意思疎通の現状とニーズ把握、それに必要な技術の確認を行った。そして、弱視ろう、弱視難聴者のコミュニケーション支援の多様性の研究と文字による通訳の提供方法を検討し、それから登録要約筆記者の習得している知識や技術を補完する追加養成カリキュラムを検討し策定した。それぞれの研究については以下の3つのような結果とな

った。

1 弱視ろう・弱視難聴者への文字情報支援の在り方に関する研究（佐藤匡）

コミュニケーション支援の多様性の研究や養成カリキュラムの検討と並行して、盲ろう者の意思疎通、特に要約筆記利用の現状とニーズを確認し必要な支援を明らかにするために、アンケート及び聞き取りを行った。

アンケート集計から、手書きのノートテイクを見ているのが25人、パソコン要約筆記のスクリーンを近くの席で見ているのが23人、会場向けのパソコン要約筆記につないで手元で見ているのが18人、自分向けのパソコンに入力してもらい手元で見ているのが18人、手書きのスクリーンを近くの席で見ているのが17人などということが明らかになった。また、公的制度で28.3%（盲ろう者の3分の1近く）が要約筆記を利用していた。文字の見え方についての設問では、半数以上が文字の大きさやフォント、色などを工夫すれば読めると回答したことから、表出の工夫など要約筆記者への追加養成の必要性が明らかになった。

聞き取り調査としては、アンケート調査において、「聞き取りに応じる」と回答した人の中から10人に対して調査を実施した。

全国における盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会の時間数調査については、本研究の作業委員から情報の提供を受けた。また、全国における文字情報支援に特化した養成講習会の実施状況調査についても、本研究の作業委員を通して情報提供を受けた。

2 盲ろう者、特に視覚障害者におけるコミュニケーション支援の多様性に関する研究（大河内直之）

近年、聴覚障害者向けパソコン要約筆記サービスを、視覚と聴覚の両方に障害を併せ持つ盲

ろう者が利用するケースが散見される。

これは、盲ろう者向け通訳・介助員サービスの人材及び時間数の不足が起因しているものと考えられている。そのため、こうした実態に合わせて、盲ろう者のニーズを踏まえた文字情報支援の提供が、要約筆記者側にも求められるようになってきた。

本研究では、盲ろう者が普段、文字情報のアクセス並びに文字通訳等に利用する視覚障害者向けの電子支援技術や点字の利用状況を概観したうえで、こうした技術等も活用しながら、盲ろう者が既存の聴覚障害者向けパソコン要約筆記を利用するためには、どのような配慮が必要なのか、またそれぞれの見え方・聞こえ方に配慮した盲ろう者向けパソコン要約筆記に求められる要件とはどのようなものなのかを整理した。同時に、現在盲ろう者に求められている新たな技術を使った文字通訳方法の可能性とその課題についても考察した。

3 盲ろう者に対する文字情報支援への要約筆記者活用の可能性に関する研究（三宅初穂）

登録要約筆記者が、盲ろう者に対する知識を習得し、介助の知識と技術の学習をとおして、新しい社会資源として活用の道を作ることを考察した。聴覚障害者を対象として発展してきた要約筆記の歴史をたどることで、要約筆記者に求められる専門性は当該者の権利擁護につながることを明らかにした。

本研究では、平成23年に示された「要約筆記者養成カリキュラム」、同25年に示された「盲

ろう者向け通訳・介助員養成カリキュラム」を比較検討し、登録要約筆記者が盲ろう者に文字による支援活動をするための学習内容、必要時間数等を明らかにした。

84時間以上のカリキュラム修了と登録試験の実施の定着しつつある要約筆記事業における実績を踏まえ、盲ろう者支援の知識、技術を新たに獲得するためのカリキュラムを検討した。現行制度の中での利用のしにくさを一時的に回避する要約筆記の援用ではなく、盲ろう者の個人生活を実り豊かなものにする支援であることを目指した。

C 結論・考察

3件の研究課題から、盲ろう者の多様性と支援におけるきめ細かな個別性が当該者の社会参加や権利擁護を促進することを確認した。要約筆記者養成カリキュラムにおいて蓄積された要約筆記の技術習得過程を盲ろう者の支援の実際に生かすようカリキュラム案を構成した。本研究のカリキュラム案をさらに有効に機能させるには現行制度に反映させる方策が求められる。

D 健康危険情報

なし

E 研究発表

なし

F 知的財産権の出願・登録状況

なし

厚生労働科学研究費補助金
障害者対策総合研究事業 障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）
分担研究報告書

弱視ろう・弱視難聴者への文字情報支援の在り方に関する研究

研究代表者 佐藤 匡 特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会 研究員

要旨

コミュニケーション支援の多様性の研究や養成カリキュラムの検討と並行して、盲ろう者の要約筆記利用の現状を確認するために、アンケートや聞き取りを行った。対象者の選定は、全国盲ろう者協会、全聴情協、全難聴から紹介を受けた 158 団体に依頼し、各団体から留め置きや郵送でアンケート用紙を届けてもらい、直接郵送方式で回収した。対象者のアンケート記入の困難さに配慮し、回収までの期間を長めに設定、また、回収したアンケートの例外値の回答は、内容をつかみ取ってできるだけ除外しないこととした。回答のあった 131 通のうち、有効回答 113 人を集計・分析した。39 都道府県から回答が得られ、年齢構成は 50～70 代が中心であった。

盲ろう者向け通訳・介助員を 86 人が利用しており、要約筆記を利用しているのは 41 人であった。盲ろう者向け通訳・介助員を会議で利用しているのは 72 人、要約筆記は 28 人であった。盲ろう者向け通訳・介助員を講演や研修等で利用しているのは 77 人で、要約筆記は 32 人であった。

要約筆記を利用する場合、手書きのノートテイクを見ているのが 25 人、パソコン要約筆記のスクリーンを近くの席で見ているのが 23 人、会場向けのパソコン要約筆記につないで手元で見るのが 18 人、自分向けのパソコンに入力してもらい手元で見るのが 18 人、手書きのスクリーンを近くの席で見ると 17 人であった。また、公的制度で要約筆記者を利用しているのは 32 人であり、28.3%（盲ろう者の 3 分の 1 近く）が要約筆記を利用していることになる。文字の見え方についての設問では、半数以上が文字の大きさやフォント、色などを工夫すれば読めると回答したことから、表出の工夫など要約筆記者への追加養成の必要性が明らかになった。

聞き取り調査としては、アンケート調査において、「聞き取りに応じる」と回答した人の中から 10 人に対して調査を実施した。

全国における盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会の時間数調査については、本研究の作業委員から情報の提供を受けた。また、全国における文字情報支援に特化した養成講習会の実施状況調査についても、本研究の作業委員を通して情報提供を受けた。

A. 研究目的

第1回研究委員会・研究作業委員会において、実態調査の実施について次のような議論がなされた。

本研究は、要約筆記事業を盲ろう者が活用できるようにする方法の検討、つまり登録要約筆記者に必要な教育を考えることが目的である。聴覚障害者対象の要約筆記を盲ろう者が依頼することがある。利用可能時間数の不足や、盲ろう者向け通訳・介助員の確保が困難な実態から、移動支援は同行援護を利用し、講演会や会議の場面では要約筆記、または手話通訳を利用するという場合がある。要約筆記は、本来聴覚障害者を対象とする支援であるが、そのような場合盲ろう者からの依頼に対して何ができて、何ができないのかを明らかにしておく必要がある。そのためには、弱視ろう、弱視難聴者など文字情報支援が必要な人を対象に、アンケートや聞き取りをするべきである。つまり本研究においてはニーズの調査が前提となる。

調査対象は、全国盲ろう協会ですとまとめた4つのパターン（後述）のうち、弱視ろうと弱視難聴者で、その人に文字情報が必要な状況を調査する。「厚生労働省平成24年度障害者総合福祉推進事業 盲ろう者に関する実態調査報告書」（平成25年3月 社会福祉法人全国盲ろう者協会 P26）によると、平成25年1月時点の盲ろう者へのアンケート調査（有効回答 2,744 通）のうち視覚障害と聴覚障害の組み合わせの割合は右上の表のようになっている。

表1 視覚障害組み合わせ（状態）

	人数	割合
全盲ろう	437	15.9%
全盲難聴	1130	41.2%
弱視ろう	211	7.7%
弱視難聴	722	26.3%
無回答	244	8.9%
合計	2744	100.0%

厚生労働省平成24年度障害者総合福祉推進事業
盲ろう者に関する実態調査報告書 P26

盲ろう者友の会という組織が45都道府県にあるので、全国盲ろう者協会に登録している盲ろう者を対象に、盲ろう者友の会と連携して調査するのがスムーズである。第24回全国盲ろう者大会静岡大会で、盲ろう者の参加は263人であったが、その中でパソコン要約筆記希望者が20人くらいであったことを踏まえると、ニーズの割合がおおよそつかめるはずである。ただし、盲ろう者友の会や全国盲ろう者協会に登録していない人も多いという話もある。実際の盲ろう者の数はもっと多いのに、団体に所属していない難聴者、ろう者も多いようである。そのため調査対象は実際より狭い範囲になる。（宮崎県の例では、県の調査で県内の盲ろう者は約190人いることが分かっているが、盲ろう者友の会に登録しているのは10人である。千葉県では、盲ろう者は300人ほどいるといわれているが、盲ろう者友の会で把握しているのは30人である。この宮崎県と千葉県の例は、後述する聞き取り調査の中で明らかになった。）

B. 研究方法

1. アンケート質問項目作成

アンケートの作成について、第4回研究作業委員会まで、以下のような議論がなされた。

アンケートとしては現状の把握のため、難聴者向けの要約筆記派遣を利用したことがあるかないかを確認する。また、盲ろう者向けの通訳・介助員派遣でパソコンや手書きの筆記通訳を利用しているかも確認したい。要約筆記の派遣か、盲ろう者向けの派遣を使っているのかが見えると、ニーズがかつかめるかもしれない。現状把握と本当は何を希望しているのかの2段階ということになる。盲ろう通訳・介助事業の予算が不足しているため要約筆記を使うという場合もあるであろうから「要約筆記だけ」の依頼をした経験は確認したほうがよさそうである。

視覚障害については、見えない、見えにくくなった時期を、聴覚障害については聞こえない、聞こえにくくなった時期を聞くと、コミュニケーションのベースのタイプが分かる。視覚障害については、視力だけでなく視野の確認も必要である。それは視野障害での視覚障害等級もあるからである。

日常的なコミュニケーション手段の受発信をきくと、それが障害のバロメータとなる。たとえば、発信は手話で受信は文字であれば、その人は弱視ろうということになる。文字情報を必要とすると回答者が答えた場合、そこから何をきくかが問題である。たとえば、日常的に文字情報が必要かときき、その文字情報を要約筆記から得ている人に対して実情と改善策をきくというように、対象と内容を絞ったほうがいい。聴覚障害者向けの要約筆記を依頼したことがあるか、もしあるとしたら、会場にある要約筆記で読み取ることができるのか、手元で見たいというニーズはあるのか、隣で表示してもらわないと見えないかといったことも訊ねてみる意味

がある。

全体投影に求めることと個別のノートテイクに求めることを分けて考えるべきである。全体投影の要約筆記がある場面では、それを使おうという発想になるのはやむを得ないことである。しかし、全体投影を無理して使う現状がある。そうではなく、盲ろう者が使いたい支援があるはずである。それを浮き彫りにしたい。

本研究としては、個別のニーズに対応したパーソナルな支援を検討するほうが、幅広く対応できる。たとえば、5文字×5行しか読めないもので要約してゆっくり出してほしいという人や、視野は狭いが視力はあるので、小さな文字でかつ要約せずに話し手の微妙な言葉使いも含めてほしいという要望もあるかもしれない。パソコンによるノートテイクでは、さらに人によって設定が違う場合がある。新谷委員は24文字×7行で画面を見ているが、宇田川委員は17文字×6行で見ている。手書きノートテイクでは、高齢者には大きな文字で書くこともある。そのように盲ろう者の個別の使いやすいニーズを洗い出していきたい。盲ろう者は、現存の要約筆記に加えて「全体的な状況説明」が入るとうれしいと答えるかもしれない。そういったニーズがあるかも知れないのである。

これらの議論を踏まえ、詳細の質問項目を検討した。原案に対する意見をもとに修正案が作られ、それをメーリングリスト上で意見交換して最終的に質問項目を確定させた。

次ページに、確定し配布した「要約筆記者による盲ろう者支援の在り方に関する研究」アンケートを示す。質問項目が増えたため、アンケート枚数は10枚となった。見やすさを考慮して、B4判の用紙に20ポイントのフォントサイズでプリントしたものを使用した。

「要約筆記者による盲ろう者支援の在り方に関する研究」アンケート

お住まい 都道府県 区・市・町・村

年代 20歳未満 20代 30代 40代 50代 60代 70才以上

- * 該当するものに○をつけてください
- * 枠内にはわかるところをご記入ください

I あなたの障害について

1 見えにくくなったのはいつごろですか

- ① 右目 歳ころ
- ② 左目 歳ころ
- ③ 視野狭窄 あり なし
- ④ 夜盲 あり なし
- ⑤ 現在の視力 右 . 左 .
- ⑥ 視覚障害の等級 あり 級 なし

2 聞こえにくくなったのはいつごろですか

- ① 右耳 歳ころ
- ② 左耳 歳ころ
- ③ 語音明瞭度 良い 悪い % (わかれば)
- ④ 現在の聴力 右 dB 左 dB
- ⑤ 聴覚障害の等級 あり 級 なし

II 日常生活では音声の情報をどのような手段で入手しますか

1 1人の人との会話

- ① 補聴器や人工内耳、FM補聴機器等を使い発言者の声を聞く はい いいえ
- ② 相手に筆談、手話をしてもらう はい いいえ
- ③ 手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う はい いいえ
- ④ その他 ()

- 2 数人の人との会話
- ① 補聴器や人工内耳、FM 補聴機器等を使い発言者の声を聞く はい いいえ
- ② その場にいる人に耳元で復唱してもらう はい いいえ
- ③ 手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う はい いいえ
- ④ その他 ()

- 3 多数の人の参加する集まり
- ① 補聴器や人工内耳、FM 補聴機器等を使い発言者の声を聞く はい いいえ
- ② その場にいる人に耳元で復唱してもらう はい いいえ
- ③ 手話通訳者や要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員を使う はい いいえ
- ④ その他 ()

III それぞれの場面での見えにくさについて

- 1 目の前にいる人との会話で相手の口形を見る
- ① 薄暗くてもおおよそわかる はい いいえ
- ② 明るいところでならおおよそわかる はい いいえ
- ③ 明るいところでもよくわからない はい いいえ
- ④ その他 ()

- 2 机の上の本や資料を読む
- ① ふつうの文字でも顔を近づければ読める はい いいえ
- ② 拡大文字にすれば読める はい いいえ
- ③ 拡大鏡・拡大読書器を使えば読める はい いいえ
- ④ その他 ()

- 3 机の上のパソコンの画面を読む
- ① 白黒反転など背景色と文字の色を調整すれば読める はい いいえ
- ② MS ゴシックなど、フォントを変えれば読める はい いいえ
- ③ 文字の大きさを変えれば読める はい いいえ
- ④ その他 ()

- 4 2メートルくらい離れた黒板やスクリーンを見る
- ① 大きな文字なら読める はい いいえ
- ② 大きな図なら見える はい いいえ
- ③ 単眼鏡（遠くの文字を拡大する）等を使えば見える はい いいえ
- ④ その他 ()

IV それぞれの場面での聞こえにくさについて

1 補聴器または人工内耳を利用していますか

A 利用していない

① ほとんど効果がない

② 効果が少ないうえにわずらわしい

③ 値段が高い

④ その他 ()

⇒ Vに進んでください

B 利用している ⇒ 下の質問に進んでください

補聴器や人工内耳を利用している方のみお答えください

a 目の前にいる人との会話

① だいたいわかる はい いいえ

② 相手の口や話し方がよければだいたいわかる はい いいえ

③ 半分くらいわかる はい いいえ

④ 相手の口や話し方がよければ半分くらいわかる はい いいえ

⑤ その他 ()

b 5人くらいの話し合い

① 機器や人的な支援がなくてもだいたいわかる はい いいえ

② ループがあればわかる はい いいえ

③ マイクがあればわかる はい いいえ

④ 相手の口や話し方がよければだいたいわかる はい いいえ

⑤ その場にいる人に復唱してもらえばわかる はい いいえ

⑥ その他 ()

c 20人くらいの話し合い

① 機器や人的な支援がなくてもだいたいわかる はい いいえ

② ループがあればわかる はい いいえ

③ マイクがあればわかる はい いいえ

④ 手話通訳があればわかる はい いいえ

⑤ 要約筆記があればわかる はい いいえ

⑥ その場にいる人に復唱してもらえばわかる はい いいえ

⑦ その他 ()

V 通訳の利用について

1 手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用していますか

A 利用していない

- | | | | |
|---|---------------|----|-----|
| ① | 利用の方法がわからない | はい | いいえ |
| ② | やってくれる知り合いがない | はい | いいえ |
| ③ | 利用する機会がない | はい | いいえ |
| ④ | 気を使うから | はい | いいえ |
| ⑤ | その他 () | | |

⇒ ここで終わりです。ご協力ありがとうございました。

B 利用している 下の質問に進んでください

手話通訳や要約筆記、盲ろう者向け通訳を利用している方のみ
お答えください

a 手話通訳を利用する

- | | | | |
|---|------------|----|-----|
| ① | 会議の場面 | はい | いいえ |
| ② | 講演や研修等の場面 | はい | いいえ |
| ③ | 病院や役所などの場面 | はい | いいえ |
| ④ | 学校での授業の場面 | はい | いいえ |
| ⑤ | その他 () | | |

b 盲ろう者向け通訳・介助員を利用する

- | | | | |
|---|------------|----|-----|
| ① | 会議の場面 | はい | いいえ |
| ② | 講演や研修等の場面 | はい | いいえ |
| ③ | 病院や役所などの場面 | はい | いいえ |
| ④ | 学校での授業の場面 | はい | いいえ |
| ⑤ | その他 () | | |

⇒ a または b を利用される方はVIに進んでください

c 要約筆記を利用する

- | | | | |
|---|------------|----|-----|
| ① | 会議の場面 | はい | いいえ |
| ② | 講演や研修等の場面 | はい | いいえ |
| ③ | 病院や役所などの場面 | はい | いいえ |
| ④ | 学校での授業の場面 | はい | いいえ |
| ⑤ | その他 () | | |

- d 要約筆記を利用する場合
- | | | | |
|---|-------------------------|----|-----|
| ① | 手書きのスクリーンを近くの席で見る | はい | いいえ |
| ② | 手書きのノートテイクを見る | はい | いいえ |
| ③ | パソコン要約筆記のスクリーンを近くの席で見る | はい | いいえ |
| ④ | 会場向けのパソコン要約筆記につないで手元で見る | はい | いいえ |
| ⑤ | 自分向けのパソコンに入力してもらい手元で見る | はい | いいえ |
| ⑥ | その他 () | | |

VI 公的制度の利用について

1 盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業を利用していますか

A 利用していない

- | | | | |
|---|-------------------|----|-----|
| ① | 利用の方法がわからないから | はい | いいえ |
| ② | 手帳がないから | はい | いいえ |
| ③ | 申請したが利用条件が合わず断られた | はい | いいえ |
| ④ | 家族・友人に助けてもらう | はい | いいえ |
| ⑤ | 利用する機会がない | はい | いいえ |
| ⑥ | 機会があれば利用したい | はい | いいえ |
| ⑦ | その他 () | | |

⇒ 2に進んでください

B 利用している 下の質問に進んでください

- | | | | |
|---|-----------|----|-----|
| ① | よく利用する | はい | いいえ |
| ② | たまに利用する | はい | いいえ |
| ③ | 利用したことがある | はい | いいえ |

2 要約筆記者派遣事業を利用していますか

A 利用していない

- | | | | |
|---|-------------------|----|-----|
| ① | 利用の方法がわからないから | はい | いいえ |
| ② | 手帳がないから | はい | いいえ |
| ③ | 申請したが利用条件が合わず断られた | はい | いいえ |
| ④ | 家族・友人に助けてもらう | はい | いいえ |
| ⑤ | 利用する機会がない | はい | いいえ |
| ⑥ | 機会があれば利用したい | はい | いいえ |
| ⑦ | その他 () | | |

⇒ ここで終わりです。ご協力ありがとうございました。

B	利用している	下の質問に進んでください	
①	よく利用する	はい	いいえ
②	たまに利用する	はい	いいえ
③	盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業が使えないとき利用する	はい	いいえ
	⇒ ここで終わりです。ご協力ありがとうございました。		

2. アンケートの依頼先の検討

研究作業委員会での議論の結果、アンケートの送付先については、全国盲ろう者協会を通して、加盟団体に依頼することになった。また、難聴は自覚しているが視覚障害を自覚していない人が難聴者協会に所属している。そういった人も含めて、難聴者協会や情報提供施設協議会を通じて、把握している対象者の範囲で依頼することになった。

最終的には、全国盲ろう者協会、全国聴覚障害者情報提供施設協議会、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会から紹介を受けた団体に配布した。

全国盲ろう者協会から紹介を受けた 49 団体、全聴情協から紹介を受けた 52 団体、全難聴から紹介を受けた 57 団体の合計 158 団体に、封筒とアンケート質問回答用紙のセットを 10 セットずつ送った。対象者については各団体の支部が把握している障害の状況によって選定してもらった。

各団体は、返信用封筒とアンケート質問回答用紙を対象者に配布、返送は回答者が直接郵送するという方式で回答を依頼した。アンケート協力者への依頼文は、見やすさを考慮して、B4判の用紙に 20 ポイントのフォントサイズでプリントしたものを配布した。各団体に送った封筒と回答用紙のセットは、そこから先については留め置きや郵送で対象者に届けられた。返信は直接郵送で送り返してもらう方式である。

C. 研究と考察

2015年11月10日から各団体へのアンケート用紙と返信用封筒のセットの配布を開始した。回収期限としては当初 2015年11月25日を設定したが、対象者本人が直接設問を読み回答を書き込み、また返信するといった作業が難しい場合があるため、実施期間に余裕を持たせて最終的には 2016年1月5日までに返送されてきた 131 通を分析の対象とした。

返送されてきたアンケート用紙については、ナンバリングしたあと Excel にデータを入力し、その後、読み上げソフトで誤入力のチェックを行った。

1. アンケート質問項目とデータクリーニング

表 2 に、アンケート質問項目と実際の回答に記入されていた例外値の例を示す。たとえば「聴覚障害等級」の回答では、無回答、2 級以上だと認識と回答、(聴覚障害等級は 2 級以下しかないにも関わらず) 1 や 5 と回答、2 と回答し余白部分に「視覚障害と合わせて総合 1 種 1 級」とコメント、3 と回答し余白に「聴覚と視力で 2 級」とコメント、などと様々で、プリテストだけではこの例外値を事前に予測することができなかった。そのため、分析に使うデータとしては、例外値回答の内容をつかみ取って使用することとし、できるだけ除外しない方針で進めた。

表一 2 アンケート質問項目と記入されていた例外値

大分類(略記)	設問番号	小分類(略記)	回答指示内容	例外値の例
フェイスシート		都道府県	()	市を記入
		市区町村	()市・区・町・村	広島市の区を記入
		年代	20歳未満、20代、30代、40代、50代、60代、70才以上	無回答
あなたの障害見えにくくなったのは	I1①	右目障害年齢	()歳ごろ	無回答 ? 生まれつき 2段階で悪くなった 老眼の度数を記入 忘れた ○○歳代 徐々に
	I1②	左目障害年齢	()歳ごろ	右目と同様
	I1③	視野狭窄	あり なし	無回答
	I1④	夜盲	あり なし	無回答
	I1⑤	現在の右視力	右()	無回答 ? 不明 分からない 手動弁 ○○以下、○○～○ ○ 計測不能 人工レンズ入り 視力 光覚 全盲 0.002
	I1⑤	現在の左視力	左()	右視力と同様
	I1⑥	視覚障害有無	あり なし	無回答 なし/申請中
I1⑥	視覚障害等級	()級	無回答 6級以下 覚えていない	
あなたの障害聞こえにくくなったのは	I2①	右耳障害年齢	()歳ごろ	生まれつき 乳幼児期 生まれてすぐ いつのまにか 推定 ○歳後半
	I2②	左耳障害年齢	()歳ごろ	右耳と同様
	I2③	語音明瞭度	良い 悪い	
	I2③	語音明瞭度%	()%(わかれば)	○%以下
	I2④	現在の右聴力	()dB	無回答 左右100dB以上 耳として機能していない状態。詳しいdBは記述不可 スケールアウト 先天性ろう 人工内耳 80? 100/全ろう 100↑ 0.8 133
	I2④	現在の左聴力	()dB	左聴力と同様
	I2⑤	聴覚障害有無	あり なし	無回答
I2⑤	聴覚障害等級	()級	無回答 2級以上だと認識 1 5 2と回答しコメントに視覚障害と合わせて総合1種1級 3と回答しコメントに聴覚と視力で2級	

日常音声入手 手段 1人との 会話	II1①	1対1会話補聴器	はい いいえ	無回答 質問前の数字に○ I V1A以降で逆の答え
	II1②	1対1会話筆談	はい いいえ	無回答
	II1③	1対1会話手話・ 要約・盲ろう通訳	はい いいえ	無回答 ときどき
	II1④	1対1会話その他	()	
日常音声入手 手段 数人との 会話	II2①	数人会話補聴器	はい いいえ	無回答 IV1A以降で逆の回 答
	II2②	数人会話復唱	はい いいえ	無回答
	II2③	数人会話手話・ 要約・盲ろう通訳	はい いいえ	無回答 質問文章中に○が付 いている
	II2④	数人会話その他	()	
日常音声入手 手段 多人数 集まり	II3①	多人数会話補聴 器	はい いいえ	無回答 IV1A以降で逆の回 答
	II3②	多人数会話復唱	はい いいえ	無回答 いいえ△
	II3③	多人数会話手 話・要約・盲ろう 通訳	はい いいえ	無回答 はい△
	II3④	多人数会話その 他	()	
見えにくさ 目 の前の人との 会話	III1①	目の前会話薄暗 くても可	はい いいえ	無回答 かすかに ここははい で次の質問にもはい 質問前 の数字に○が付いている
	III1②	目の前会話明る いなら可	はい いいえ	無回答 かすみあり ここでは いで次の質問にもはい 質問 前の数字に○が付いている
	III1③	目の前会話明るく ても不可	はい いいえ	無回答 質問文章中に○が付 いている 質問前の数字に○ が付いている 明るいと不可 明るすぎても暗すぎてもだめ
	III1④	目の前会話見え にくさその他	()	目の障害なし
見えにくさ 机 上の本や資料	III2①	読書ふつう文字 で可	はい いいえ	無回答 ここではいで次の質問 にもはい
	III2②	読書拡大文字で 可	はい いいえ	無回答 質問前の数字に○が 付いている はい? はい△
	III2③	読書拡大鏡で可	はい いいえ	無回答 質問前の数字に○が 付いている はい? 使用しな い
	III2④	読書見えにくさそ の他	()	
見えにくさ 机 上のパソコン	III3①	パソコン画面色変 更で可	はい いいえ	無回答 「はい」と「いいえ」の 間に印がある
	III3②	パソコン画面フォ ント種で可	はい いいえ	無回答 はい白黒反転で、白 黒反転は無回答 はい△
	III3③	パソコン画面文字 大きさを可	はい いいえ	無回答 はい? 質問前の数 字に○が付いている

	III3④	パソコン画面見えにくさその他	()	
見えにくさ 2m離れた黒板やスクリーン	III4①	黒板文字大きさを可	はい いいえ	無回答 はい? はい△
	III4②	黒板大きな図なら可	はい いいえ	無回答 はい? △ はい△
	III4③	黒板単眼鏡で可	はい いいえ	無回答 使わない、使ったことがない
	III4④	黒板見えにくさその他	()	目の障害なし
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用有無と使わない理由	IV1A	補聴器利用有無	利用していない(利用している)	無回答 II1①と逆の回答 質問文章中に○が付いている 質問前の数字に○が付いている
	IV1A①	補聴器利用しない理由効果なし	数字に丸	無回答 利用するのに利用しない理由を記入
	IV1A②	補聴器利用しない理由わずらわしい	数字に丸	無回答 利用するのに利用しない理由を記入
	IV1A③	補聴器利用しない理由値段高い	数字に丸	無回答 利用するのに利用しない理由を記入
	IV1A④	補聴器利用しない理由その他	()	
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用目の前の人との会話	IV1Ba①	補聴器利用目の前会話だいたい	はい いいえ	無回答 質問文章中に○が付いている 質問前の数字に○が付いている
	IV1Ba②	補聴器利用目の前会話よければだいたい	はい いいえ	無回答
	IV1Ba③	補聴器利用目の前会話半分	はい いいえ	無回答 質問前の数字に○が付いている
	IV1Ba④	補聴器利用目の前会話よければ半分	はい いいえ	無回答 「設問がおかしい」私たちにとっては聞こえた分が100%。聞こえなかった範囲は不明。
	IV1Ba⑤	補聴器利用目の前会話その他	()	
聞こえにくさと補聴器・人工内耳の利用5人ぐらいの話し合い	IV1Bb①	補聴器利用5人会話だいたい	はい いいえ	無回答
	IV1Bb②	補聴器利用5人会話ループ	はい いいえ	無回答 使ったことがないのでわからない はい/△ (ループがあればわかる)時もある。
	IV1Bb③	補聴器利用5人会話マイク	はい いいえ	無回答 (マイクがあればわかる)時もある。「はい」と「いいえ」の間に印がある?
	IV1Bb④	補聴器利用5人会話よければだ	はい いいえ	無回答 いいえ/△ ?

		いたい		
	IV1B b⑤	補聴器利用 5 人 会話復唱	はい いいえ	無回答
	IV1B b⑥	補聴器利用 5 人 会話その他	()	
聞こえにくさと 補聴器・人工 内耳の利用 20 人ぐらいの 話し合い	IV1B c①	補聴器利用 20 人 会話だいたい	はい いいえ	無回答
	IV1B c②	補聴器利用 20 人 会話ループ	はい いいえ	無回答 使ったことがないので わからない はい/いいえ は い/△ ?
	IV1B c③	補聴器利用 20 人 会話マイク	はい いいえ	無回答 ? 「はい」と「いいえ」 の間に印がある
	IV1B c④	補聴器利用 20 人 会話手話通訳	はい いいえ	無回答 いいえ/手話できま せん いいえ/△
	IV1B c⑤	補聴器利用 20 人 会話要約筆記	はい いいえ	無回答 使ったことがないので わかりません 「はい」と「いい え」の間に印がある 質問前の 数字に○が付いている
	IV1B c⑥	補聴器利用 20 人 会話復唱	はい いいえ	無回答 質問文章中に○が付 いている いいえ/△
	IV1B c⑦	補聴器利用 20 人 会話その他	()	
通訳利用 有 無と使わない 理由	V1A	通訳利用有無	利用していな い (利用し ている)	無回答 質問前の数字に○が 付いている
	V1A ①	通訳利用しない 理由方法不明	はい いいえ	無回答
	V1A ②	通訳利用しない 理由知り合いなし	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答
	V1A ③	通訳利用しない 理由機会なし	はい いいえ	無回答
	V1A ④	通訳利用しない 理由気を使う	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答
	V1A ⑤	通訳利用しない 理由その他	()	
通訳利用 手 話通訳利用有 無と場面	V1Ba	手話通訳利用有 無	【下記に回答 していれば 利用ありとみ なす】	
	V1Ba ①	手話通訳利用会 議	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回 答 はい/△ 質問前の数字 に○が付いている
	V1Ba ②	手話通訳利用講 演	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回 答 はい/△ 質問前の数字 に○が付いている
	V1Ba ③	手話通訳利用病 院	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回 答 いいえ/△

	V1Ba ④	手話通訳利用授 業	はい いいえ	無回答 行かない いいえ/な し
	V1Ba ⑤	手話通訳利用そ の他	()	
通訳利用 盲 ろう者向け通 訳・介助員利 用有無と場面	V1Bb	盲ろう通訳利用 有無	【下記に回答 していれば 利用ありとみ なす】	質問文章中に○が付いている
	V1Bb ①	盲ろう通訳利用 会議	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回 答
	V1Bb ②	盲ろう通訳利用 講演	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回 答
	V1Bb ③	盲ろう通訳利用 病院	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回 答
	V1Bb ④	盲ろう通訳利用 授業	はい いいえ	無回答 行かない いいえ/な し
	V1Bb ⑤	盲ろう通訳利用そ の他	()	
通訳利用 要 約筆記利用有 無と場面	V1Bc	要約筆記利用有 無	【下記に回答 していれば 利用ありとみ なす】	
	V1Bc ①	要約筆記利用会 議	はい いいえ	無回答 質問前の数字に○が 付いている はい/△ 利用無 しではいと回答
	V1Bc ②	要約筆記利用講 演	はい いいえ	無回答 質問前の数字に○が 付いている はい/△ 利用無 しではいと回答
	V1Bc ③	要約筆記利用病 院	はい いいえ	無回答 質問前の数字に○が 付いている 利用無しではいと 回答
	V1Bc ④	要約筆記利用授 業	はい いいえ	無回答 質問前の数字に○が 付いている いいえ/なし 利 用無しではいと回答
	V1Bc ⑤	要約筆記利用そ の他	()	質問前の数字に○が付いてい る はい
通訳利用 要 約筆記利用 要約筆記種類	V1Bd ①	要約筆記利用手 書きスクリーン	はい いいえ	無回答 質問前の数字に○が 付いている いいえ/△ ? 利用無しではいと回答
	V1Bd ②	要約筆記利用手 書きテイク	はい いいえ	無回答 ? 利用無しではいと 回答
	V1Bd ③	要約筆記利用パ ソコンスクリーン	はい いいえ	無回答 はい/△ ? 利用無 しではいと回答
	V1Bd ④	要約筆記利用パ ソコン手元	はい いいえ	無回答 いいえ/△ はい /? ? 見たい 利用無し ではいと回答

	V1Bd ⑤	要約筆記利用パ ソコンテイク	はい いいえ	無回答 ? いいえ/△/主 催側が用意してくれるところも ある。文字は70~80ポイント の大きさと読むのに時間がか かり過ぎて周りの方についてい けない。
	V1Bd ⑥	要約筆記利用そ の他	()	
公的盲ろう者 向け通訳・介 助員派遣事業 利用 有無と 使わない理由	VI1A	公的盲ろう通訳 利用有無	利用していな い (利用し ている)	無回答 質問前の数字に○が 付いている なし/年に1~2 回は行事で利用していますが、 ほとんどしていないようなもの です。
	VI1A ①	公的盲ろう通訳 利用しない理由 方法不明	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答
	VI1A ②	公的盲ろう通訳 利用しない理由 手帳なし	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答
	VI1A ③	公的盲ろう通訳 利用しない理由 条件外	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答
	VI1A ④	公的盲ろう通訳 利用しない理由 家族支援	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答 質問前の数字に ○が付いている
	VI1A ⑤	公的盲ろう通訳 利用しない理由 機会なし	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答
	VI1A ⑥	公的盲ろう通訳 利用しないが利 用希望	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答 質問前の数字に ○が付いている
	VI1A ⑦	公的盲ろう通訳 利用しない理由 その他	()	
公的盲ろう者 向け通訳・介 助員派遣事業 利用 頻度	VI1B ①	公的盲ろう通訳 利用よく利用	はい いいえ	無回答 はい/いいえ 利用 無しではいと回答
	VI1B ②	公的盲ろう通訳 利用たまに利用	はい いいえ	無回答 質問前の数字に○が 付いている 利用無しではいと 回答
	VI1B ③	公的盲ろう通訳 利用利用したこと あり	はい いいえ	無回答 利用無しではいと回 答
公的要約筆記 派遣事業利用 有無と使わな い理由	VI2A	公的要約筆記利 用有無	利用していな い (利用し ている)	
	VI2A ①	公的要約筆記利 用しない理由方 法不明	はい いいえ	無回答 利用ありで使用しない 理由を回答